平成２８年度　実践研究報告書

平成２７年度末に派遣を修了した大学院派遣教員にかかわる実践研究報告書

土佐市立高岡第一小学校　教諭　竹村　和美

１．研究の成果と課題をふまえた平成２８年度の実践内容

（１）教職大学院における研究の成果と課題

鳴門教育大学教職大学院では，「組織で取り組む潤いのある学級・学校づくり　ー子どもの意識と行動の構造に適合した効果のある指導の組織展開ー」をテーマに実践研究に取り組んだ。その成果として次の６点が挙げられた。①全教育活動において組織的な内面への働きかけにより自分の存在を肯定的にとらえることができるようになったこと。②自分への信頼とともに他者意識の醸成がされ，内発的動機を高めたこと。③授業改善がされたことで学習意欲が高まり，家庭学習の習慣が図られたこと。④子どもに考えさせて実行させる自治活動を展開してことで，子ども自らが学校をよりよいものにしていくといった規範意識の内面化が促進されたこと。⑤教師自らが意識を変え授業改善を図ったことで，教職員の質的転換ができたこと。⑥子どもの変容を通して保護者の学校，教師に対する期待感が高まり，教育活動への参加や協力につながったこと。以上のことから，当初に想定した本実践研究の目的は，一定程度達成されたととらえられた。

課題としては，家庭の環境の格差により，心が不安定な子どもが一定層存在し，いつ崩れるのかわからない状態にあることから，視点児童へのボイスシャワーや勇気づけ，寄り添った指導を継続していくこと。そして，子どもに考えさせ実行させる子どもの自治活動の場を意図的に増やし，子どもアイデアやエネルギーを活用していくこととととらえた。

（２）平成２８年度の実践内容

今年度は，１年生の学級担任として現在校で勤務をしている。本校の学校教育目標は，「認め合い，高め合う子の育成」とし，自己肯定感を高め，意欲向上を図る授業づくりを研究主題として取り組んでいる。４月当初，教師の確認５項目として①１日に子どもの数だけ「ありがとう」「できたね」を言う。②子どもにかかわり指導しきる。③その日のことはその日に終わらす。④時間を守る。⑤確認したことは全員で実行する。をみんなで取り組んでいこうと意思統一を図った。また，「第一小学びのスタイル」の中の「相手におへそを向けて聞く」「くつのかかとをそろえる」「ろうかを歩く」は，重点的に取り組み，規範意識の徹底を図り，「やさしくてがんばる子ども」を目標に学級・学年経営を行った。

①自分への信頼を高める「キラリさんを見つけたよ」

自分への信頼を高める取組として，あたりまえにできたこと，がんばったことを自分で価値づけたり；他者から勇気づけられたりする場を，「キラリさんを見つけたよ」と名前をつけて評価を可視化できるようにした（図１）。トイレのスリッパをそろえることができた。おそうじをがんばった。ろうかを静か

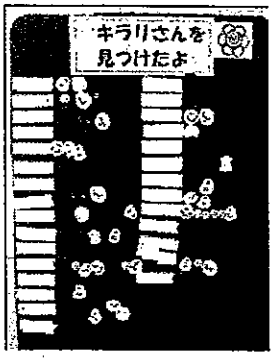

図１

に歩くことができたなど，自己評価をしてシールを貼っていった。シールを貼りながら，「すごいね」と声をかけあう姿も見られ，子どもどうしの関わりも増えてきた。可視化したことで，教師からも「ありがとう」と声をかける回数が増えた。

②友だちのすてきなところをみつけよう

「キラリさん見つけたよ」やボイスシャワー，全教育活動において，組織による価値づけ，勇気づけを行ってきたことで，「自分には得意なことや良い面がある」と自分の存在を肯定的にとらえることができるようになった。しかし，他者意識への醸成は，まだまだ不十分であり，些細なことでトラブルになることがあった。そこで，３学期には，友だちや自分のよさに気づいたり，お互いのよさを認め合ったりする，「友だちのすてきなところをみつけよう」という活動に取り組んだ。毎週月曜日の帰りに行っている人間関係づくりの時間には，「友だちクイズ」を行ったり，学級の時間に友だちのいいところをワークシートに書き合ったりした。

③実践研究を広げる

実践研究を現在校の先生に伝え広げるために，夏季休業中に発表の場を設けた。自己肯定感を高める取組を組織で行うことの大切さをデータを示しながら伝えた。また，三里校区で行われた小中合同校内研修会でも，実践研究を発表し，他校への汎用への第一歩となった。

２．平成２８年度の実践の成果と課題

本年度の実践の成果としては，自分への信頼が高まり，教師と子どもの信頼関係，子ども相互の関係性が高まったことが挙げられる。それは，心のアンケートや学校評価アンケートの結果からも読み取ることができた。また，規範意識の徹底を全校で取り組んだことで，学びのスタイルの達成率は，どれも９０％以上となった。子どもも教師も一人ひとりが意識をし，PDCA サイクルで取り組んだことで，行動化へとつながっていったととらえている。学習に対して意欲的になり，家庭学習も定着してきた。

しかし，未だ学校のルールが守れず，不適切な行動をとる児童もいる。友だちに対して暴言をはいたり，些細なことでけんかになったりすることもある。自分たちの生活をよりよくするためにきまりを守っているという児童もいるが，叱られるからきまりを守るという児童もいる。気持ちが不安定で授業に集中できないこともある。

３．今後の展望

よりよい人間関係の構築には，お互いの信頼関係を築くことが不可欠である。そのためには，教師も子どもも日常のさまざまな場面において，相手を認め，理解しあうことが大切である。これからもやさしくてがんばる子どもの育成を目指して，自他への肯定的な感情を育て，望ましい人間関係を育んでいきたい。